

渋谷区はたがや教室GAYA

20年の取り組みから考える生涯学習の役割

渋谷区知的障害者幡ヶ谷教室GAYA 浦野耕司
ぐっとあっぷがや 熊澤剛史
上智大学 笠原千絵 c-kasahara-4s7@sophia.ac.jp

1

発表のながれ

- 青年教室とは
 - 青年教室とはどのような取り組みか
 - どう展開してきたか
 - 渋谷の青年教室の成り立ち
- はたがや教室ガヤについて
 - はじまり
 - 現在の運営体制と内容
 - 支える仕組み 本人活動ぐっとあっぷがや
- 今後の展開 可能性
 - インクルーシブリサーチの取り組み
 - 生涯学習だからできること

2

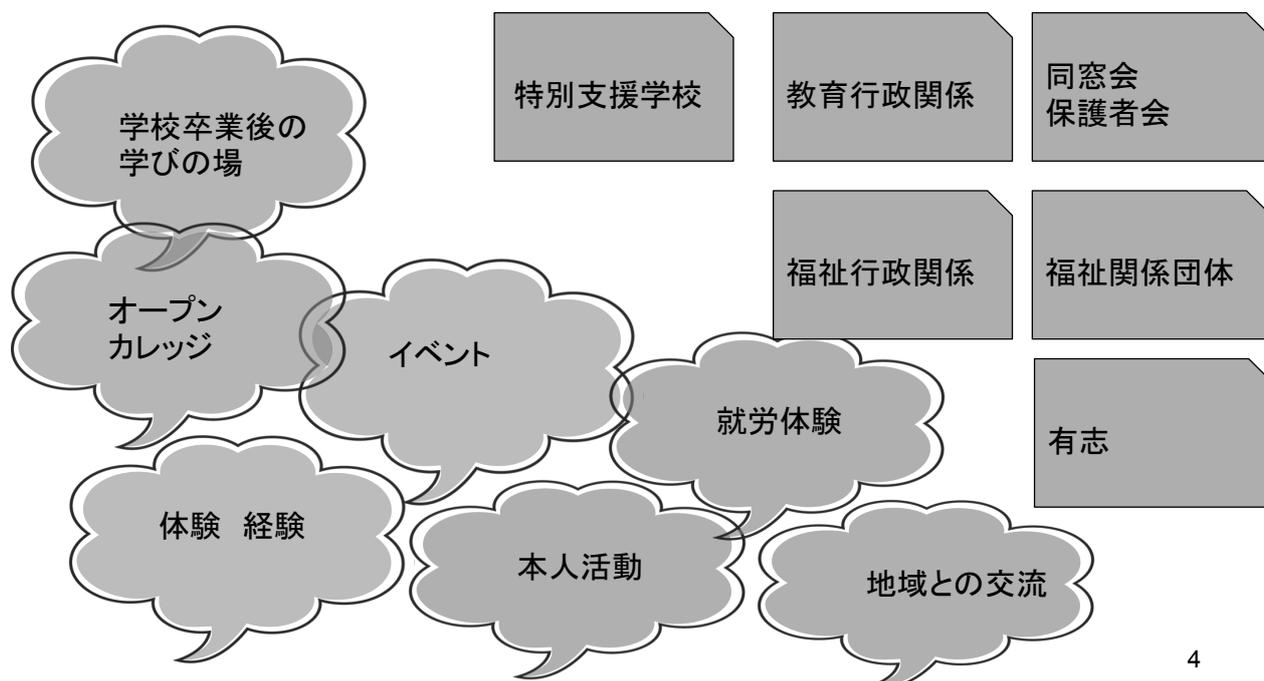
本日、皆さんにお伝えしたいこと

- ・ 障害のある人の学びのかたちは一つではなく、その地域の強みを生かした展開ができること
- ・ 障害のある人もそれを支える人も共に学ぶ仲間であること
- ・ 「共に」を実現するためのアイデア
 - 本人活動（障害のある人たちが中心となって運営するグループによる活動）
 - インクルーシブリサーチ（障害のある人と研究者がそれぞれの立場で共同して課題解決に向けて調査研究をおこなう方法）

3

青年教室とは

- ・ さまざまな形、やり方があります



4

青年教室とは2

- ・ 東京の場合
 - 社会教育事業として実施
 - 公民館等社会教育施設を拠点として展開
- ・ 渋谷区の場合
 - 地域住民が立ち上げた障害のある人のたまり場活動（居場所づくり）から発展
 - 社会教育館を拠点に展開　えびす青年教室（社会教育主事＋地域ボランティア）
 - 利用者の増加による活動の拡大　はたがや青年教室GAYA（社会教育主事＋地域の障害福祉に携わるスタッフ）

5

はたがや教室GAYAについて

- ・ 1998年に開始（今年で20周年）
- ・ 開設時のコンセプト
 - ❖障害が重くても活動場所に来ることができれば大丈夫
 - ❖本人の希望で両方の青年教室に参加することも可能
- ・ 現在の運営状況
 - ❖毎月1回（原則第1日曜日）11:00-15:00 年間11回
 - ❖参加者　登録メンバー　　65名（高校生以上）
 ボランティア　　20名前後（毎回）

6

はたがや教室GAYAについて2

・運営体制

教育委員会
生涯学習課

主催。全体管理、予算獲得、メンバーやボランティアの登録やマネジメント

渋谷区
サービス公社

施設管理。受付、会場・プログラム準備片付け、メンバー支援

運営員会

プログラムの企画、運営。メンバー・ボランティアのコーディネート、情報発信

7

はたがや教室GAYAについて3

・活動内容の紹介

- ❖ 全員での活動（ガヤリンピック、夏フェスなど）
- ❖ グループでの活動（料理、音楽、クラフト）
- ❖ イベント活動（クリスマス会、地域で活躍する方をお招きして）

8

はたがや教室GAYAについて4

本人活動（ぐっとあっぷガヤ）

- ❖話し合い（毎月第3土曜日夕方）
- ❖あそぶ（食事会や体操、ipadで遊ぶなどメンバーのやりたいこと）
- ❖発表する
 - 大学でのゲストスピーカー
 - 超福祉展での発表（超福祉の学校での進行係と発表）
- ❖調査する（暮らしの調査ーインクルーシブリサーチ）

9

今後の展開 可能性

- ・ インクルーシブリサーチの取り組み
 - ❖ 「本人リサーチャーと開発する暮らし・たすけあいフォーマット：将来の暮らしに関するインクルーシブ調査」（平成30年度三菱財団社会福祉事業・研究助成）
- ・ インクルーシブリサーチ実践の背景にある考え方
 - ❖ 知的障害者が調査の計画、実施、分析、執筆、普及というあらゆる側面に積極的に参加するアプローチ(Walmsley & Johnson 2003)
 - ❖ (研究者や支援者にとって)知的障害者を研究者に「する」ことではなく、調査プロセスを通じて得た学びを広く社会で共有し実行することが重要(Walmsley et al. 2018)
 - ❖ 知的障害者の関心をもとに関係を外に広げる。関わった人が知的障害者を排除する社会の現状に気づき、問いかけ考える機会になる(笠原2019)

10

今後の展開 可能性2

調査を通して分かりつつあること・・・

お母さんと、親に何かあったときのことは話している。いずれは1人で暮らすんだろうけど...

相談できる人、手伝ってくれる人がみつかるかどうか心配

自分で決めることではないと考えている。親に相談しないと

見学に行ったGHでは布団も干せないし、汚れていた。自分の家の方がいい



(相談支援の人は？半年に1回くらい会う人いませんか？) うーん、よくわからない

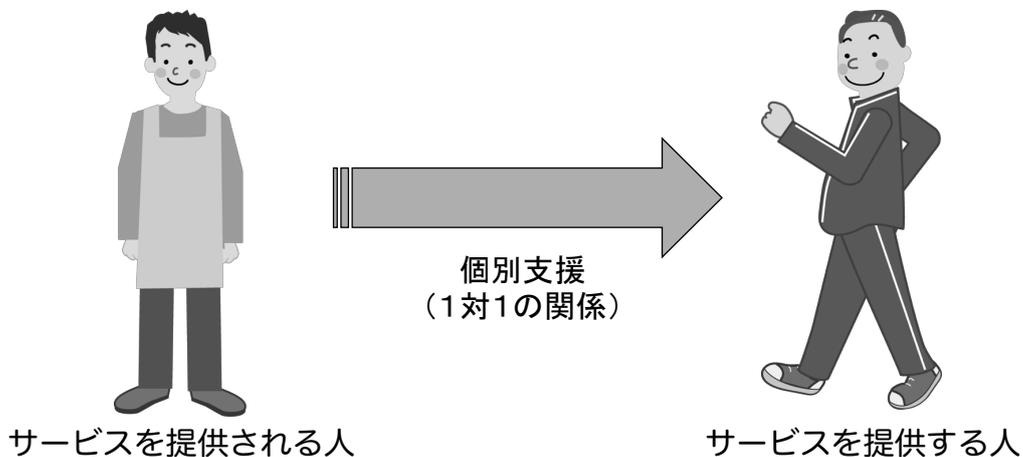
- メンバーの変化
 - ✓ 発言内容：かつては「(自分が)ちゃんとできないと...」
 - ✓ 将来への関心：「質問(項目)にないことだけど」、「もっと聞きたい」
- 周囲へのインパクト
 - ✓ 障害者のための相談支援機関や福祉制度が想定通り機能していない
 - ✓ 知的障害者にとっての選択肢が貧しく限定的である ... ことを明らかに

11

今後の展開 可能性3

障害者福祉分野との比較から考える生涯学習として取り組むことの重要性

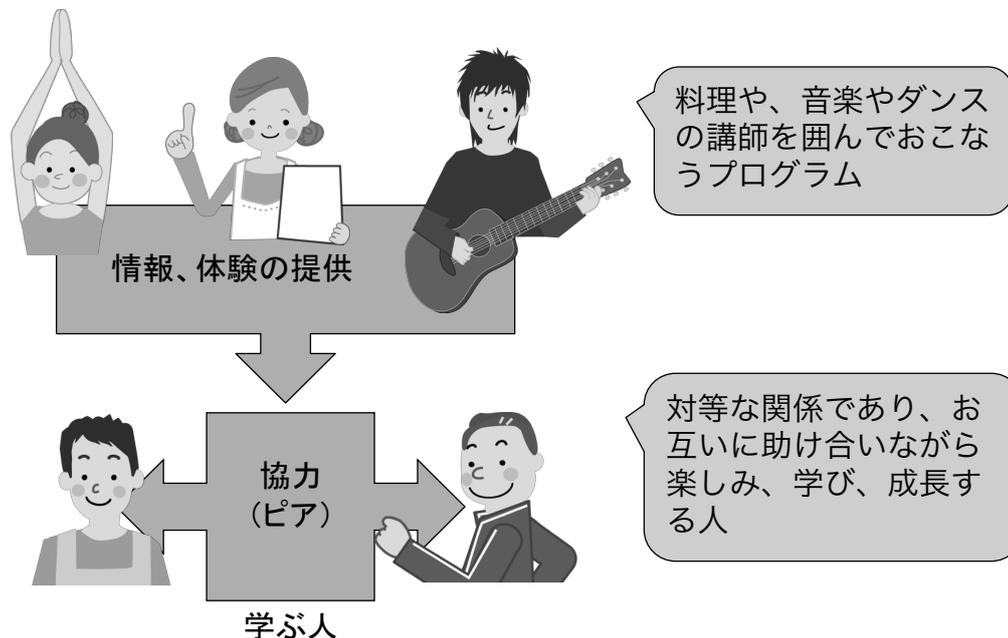
障害者福祉における位置関係



12

今後の展開 可能性4

生涯学習活動における位置関係



13

今後の展開 可能性5

メンバーの学びへのニーズをベースに双方向的な関係を作り出していくこと

地域からGAYAへ
ボランティアや講師、資材購入など
活動に入ってもら



GAYAのメンバーが地域へ
街中での活動、地域のイベントや講座への参加

14



僕よりもメンバーのみんなのほうが記憶力がよくて教えてもらうこともたくさんあります(笑)。

渋谷のラジオで出張インタビュー 知的障害者幡ヶ谷教室「GAYA」運営委員長 浦野耕司さん

—「GAYA(ガヤ)」の始まりを教えてください。

知的障害がある人たちの体験の場、学びの場として、最初に「えびす青年教室」が始まりました。その後、やっぱり1か所だけでは足りない、という話になって、1998年に始まったのが、幡ヶ谷教室「GAYA」です。僕は、参加する人たちが自分たちで選べるということが大切だと考えているので、地域に区切らず、それぞれ好きな教室に参加できるようにしています。GAYAは福祉作業所で働いているスタッフが立ち上げの時に多く関わっていたこともあって、さまざまな場面で手助けが必要な人も多く通っていますし、恵比寿と幡ヶ谷、両方に通っているという人もいます。

—青年教室という取り組みの特徴は何ですか？

青年教室は、障害者福祉ではなく、生涯学習の枠組みで行なっているということが大きな特徴ですね。障害者福祉では、サービスの“受け手”というかたちになっていると思いますが、ここでは、みんなにとっての学習の場所。ボランティアを含めたスタッフもメンバーも、ともにいろんなことを体験しよう、学んでいこうという理念でやっています。

—「GAYA」ではどんな活動をしていますか？

約60人の障害のある人(以下、メンバー)が4つのグループに分かれていて、グループごとに写真や音楽、ダンス、調理といったプログラムに取り組んでいます。今日は、写真のグループは、好きな衣装をして撮った自分のポートレートを台紙に貼って作品を作りました。調理のグループは、オリンピックの開催にちなんだ世界各国の料理というテーマで、アメリカ料理のジャンバラヤなどを作りました。ダンスのグループは2チームで、アフリカダンスを先生に習い、みんなの前で発表しました。

—「えびす青年教室」の活動内容を教えてください。

「えびす青年教室」は、15歳以上の知的障害のある人たち(以下、学級生)が集まって、さまざまなレクリエーションを楽しもうという取り組みです。活動は、月に1回、第4日曜日に実施しています。学級生が「アート」「カフェ」「けんこう」の3つのグループに分かれ、毎回どんなことをするか企画をして、取り組んでいます。アートクラブは、ペットボトルを使ってみんなで大きな東京タワーを作ったり、カラオケに行ったりしています。カフェクラブでは、食事やデザートをみんなで作ります。けんこうクラブは、ボウリングで体を動かしたり、ハンドマッサージをしたり、体にいいごはんを外に食べに行くこともあります。そのほか、今日のように全員と一緒に活動する日もあって、今回は毎年の恒例イベントになっている、ユニホック(ユニバーサルホッケー:スティックとボールを使う競技)大会を開催しました。サポート役のボランティアと学級生でチームを作って、総当たり戦で試合をしました。毎年やっているスポーツなので、慣れている学級生はルールも理解していて、結構盛り上がるんですよ。また、11月はみんなでお台場に出かけました。

—この活動に携わることになったきっかけは何ですか？

高校時代にボランティア部に所属していて、部活動の一環で参加したのが最初で、そのときにハマってしまったんです。ここにいるのが、とにかく楽しくて。学級生との関わりも、ボランティアとの関わりも楽しいんです。



当たり前のことだけどみんながそれぞれ違うから1対1でその人に合わせた接し方をしたいと思っています。

渋谷のラジオで出張インタビュー 知的障害者恵比寿教室「えびす青年教室」運営委員長 星野桃子さん

—ボランティアにはどんな人が参加されていますか？

今年はボランティアがたくさん集まってくれて、設立当初から参加しているベテランから、近隣の大学に通う学生まで、さまざまな年齢層の人たちが参加してくださっています。メンバーによって相性のいいボランティアは違いますし、多様な人が携わってくれることは、とてもありがたいですね。専門的な知識や経験は関係なくて、“普通の人付き合い”を大切にしていきたいと思うんです。新しいボランティアは、最初はどうしても戸惑ってしまうこともありますが、ボランティア同士でグループワークをして、困っていることを共有したり、解決するために「見守ることも大切だよ」とか「ベテランの人はどうしているか、みてみよう」とってアイデアを出し合っていて、みんなで学ぶ機会を設けています。専門知識ばかりだと「この人はこう」と決めてしまってしまうこともあるので、そうではないところで築いていく関係も、大切にしていきたいと思っています。

—メンバーの反応はいかがですか？

ボランティアに積極的に声をかけて、アプローチしてくれるメンバーが多いんですよ。何とかしてボランティアの関心を自分に引き寄せようとしている姿を見ると「みんな、たくましいな」とも思うし、それによって初めてのボランティアが溶け込みやすくなったりもするので、僕たちが助けられているとも思います。一方ですごく繊細な部分もあって、何か新しいことをするのはみんな不安で戸惑ってしまう。「去年はやったのに、何で今年はやらないの」と言われるんです(笑)。ここで“できた”という体験がみんなの自信や安心につながっていると思うので、できるだけ情報を伝えたり、「大丈夫だよ」と言いながら、少しずつ新しいプログラムも織り込んでいるんですけどね。ここはみんなが安心して、自分らしさを出せる場所ですし、僕たちも一緒に楽しみながらやっていきたいなと思っています。

—今後の抱負を教えてください。

僕は普段、障害者福祉分野で支援をしているんですけど、ここではみんなとちょっと違う関係なんですよ。必要な場合は専門知識を使って支援をしなければいけないけど、ここではある意味、みんなと対等で、メンバーに助けられることもあります。グループ活動とは別に「本人活動」という、メンバー自身が企画して、好きな人を誘って出かけるという活動もあるんです。障害の有無にかかわらず、そういう関係ができていくのがいいなと思います。「ここならみんなのできる」という思いがメンバーの中にはすごくあるので、帰属感や安心感を伴う場所づくりを広げていけたらいいですね。その積み重ねが、多様性、“ダイバーシティ”につながるんだと感じています。



渋谷区で人と出会い、向き合い、学び合うこと。

お互いを知ることは、いくつになっても私たちに大きな学びを与えてくれます。今回は、生涯学習の一環として実施されている、知的障害のある人たちを対象にしたふたつの“青年教室”をご紹介します。

よね。最初は「どうやって話せばいいんだろう?」と戸惑うこともありましたが、今はもうストレスなく続けています。大学に進学した後も、大学で所属しているボランティア団体の活動の1つとして携わらせていただいて、今年、3年生になってから運営委員長を引き継ぎました。ボランティアには、20年近く続けているようなベテランの方が多いので、私は、まだまだこれからという感じです。

—これまでの活動の中で、学んだことや気づいたことはありますか？

やっぱり「人ってあったかいんだな」と思いますね。こういう活動をしている人って、時間を誰かのために割こうという思いで参加されている人ばかりなので。学級生同士でも、お互いを気遣いながら活動していて、思いやりや優しさを感じる場面が多いですね。みんな、本当にすごく仲がいいんですよ。あとは、“障害”を自分事として捉えるきっかけになりました。この教室に来ていなかったら、私、全然違う人間になっていたんじゃないかなと思います。

—コミュニケーションをとる上で大切にしていることは何ですか？

その人自身と向き合うことを大切にしようという心がけています。6年間、毎月のように顔を合わせている人ばかりなので、自然にやりとりできるようなって来たと思います。今でも「あ、そこで怒るんだ!」って、驚くこともありますけど(笑)。でもそれってどんな相手とのコミュニケーション

でも生じうることですよ。他者である限り、完璧に理解できるわけではないので、わかっていう努力はするけど、わかったつもりにはならないようにしたい。やっぱり一人ひとりが違いますし、それぞれに思っていることがあるので、思い込まずに、直接見て、聞いて、話して感じようと思っています。



渋谷区の番組を放送中です ラジオ しぶや区ニュース (10分間) 月~木 11:00/16:00/21:50 「しぶや区ニュース」の情報を発信します	渋谷隣人祭り (45分間) 火 11:15 渋谷区で活躍する様々な人が登場します	hello from Shibuya (30分間) 火 16:20 区内の外国人を招いて話を伺います	ラジオ しぶや区ニュース(区長の部屋ほか) (10分間) 金 11:00/17:00/19:50 長谷部健 渋谷区長が出演する場合があります
---	--	--	--

渋谷区 × 渋谷ラジオ とは？
「しぶや区ニュース」では毎号、「渋谷のラジオ」と連動したページを掲載。「しぶや区ニュース」と「渋谷のラジオ」が連携して、人と人のつながりが広がる紙面をお届けしています。

周波数: 87.6MHz FM ☆公式アプリでも聴取可能
住所 | 渋谷3-22-11 サンクスプライムビル1階 TEL | 6712-6876
FAX | 5778-9620 E-MAIL | info@shiburadi.com HP | https://shiburadi.com/